平成20年8月15日発行　第39巻 第8号　毎月1回15日発行　昭和46年1月27日第3種郵便物認可
ISSN 0385-2229

月刊

地域保健

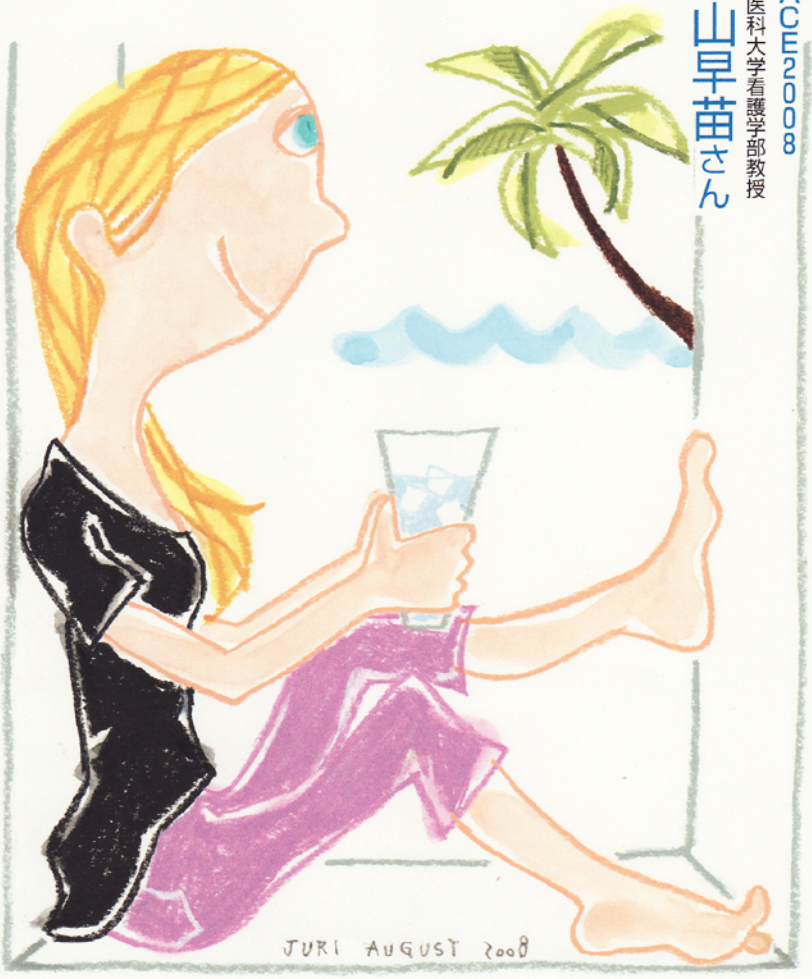
8
2008

●特集

自然災害時の保健師活動

●FACE2008

自治医科大学看護学部教授
春山早苗さん



FACE
2008

自治医科大学看護学部
教授

春山早苗さん

へき地医療は保健師活動の原点

保健医療福祉の連携が重要

photographs : Sei Kamiyasu

へき地・離島での医療の確保においては、昭和31年度からへき地保健医療計画が策定され、さまざまな施策が講じられている。現在、へき地の保健医療サービスはどのような状況で、そこで働く保健師には何が求められているのか？　へき地における医療の確保や地域住民の福祉の増進を目指している自治医科大学看護学部で教鞭をとる春山早苗教授にお話を伺った。

へき地の現状

―現在、*無医地区は日本にどの程度存在するのでしょうか？

春山　現在、「へき地保健医療計画」が第10次まで出ています。その中の調査で無医地区は、平成16年12月末の時点で786カ所あり、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府を除く都道府県すべてに存在します。人口に換算すると、約16万人以上の国民が容易に医療機関を利用できない状況にあります。

―へき地で医療サービスを確保するために国の施策で13年度から「へき地医療支援機構」や「へき地医療拠点病院」が設置されましたが、保健師はどんなかかわりがありますか？

春山　「へき地医療支援機構」ができたことにより、行政の担当者とへき地診療所をバックアップする役割を持つ「へき地医療拠点病院」が各都道府県に設置され、主に医師派遣の要請や調整、巡回診療の調整をしています。しかし医師や病院、診療所の職員の確保や医療支援に重点が置かれているため、市町村や保健所にいる保健師は、あまりかかわりがありません。

―へき地で働く保健師は、医療・福祉機関とどんな連携をとっていますか？

春山　へき地の診療所では、介護や育児にかかわる相談や電話相談、訪問看護、往診など、かなり活動が多岐にわたります。特に慢性疾患を抱えた高齢者がいるへき地も多いので、生活習慣病にかかわる指導など予防的な働きかけに力を入れている所も多くあります。自治医科大学で「へき地診療所の看護活動の実態に関する調査」をしたところ、へき地診療所で働いている半分くらいは、准看護師でした。

へき地というと資源が少ない地域と思われる方も多いのですが、中には保健と医療と福祉部門が複合した施設の中で保健師と看護師、村や町の職員が一体となって、活動している所もあり

特集

自然災害時の保健師活動

頻発する大地震、大型化する台風、さらには豪雨や突風の被害拡大など、かつてないほどに自然災害が猛威を振るっている。自然災害を人災にしないためにも発災後の住民の健康支援は非常に重要な意味を持つ。阪神・淡路大震災以来、数々の地震・水害の現場をへて、災害時の保健師活動はノウハウを蓄積してきた。今後も大規模災害の多発が予想される中で、災害時の保健師活動のポイントと課題をまとめた。

p8 **概　論**
国立保健医療科学院 公衆衛生看護部 奥田博子

p16 **災害時要援護者への対応①　【難病患者】**
～フェイズ0における難病患者への対応～
新潟県魚沼地域振興局健康福祉部 榎田 健

p26 **災害時要援護者への対応②【高齢者・障害者】**
～福祉避難所・地域包括支援センターでの対応を中心として～
柏崎市元気支援課介護予防係 藤巻真理子
柏崎市元気支援課地域保健係 井倉久美子

p38 **災害時要援護者への対応③　【乳幼児】**
柏崎市保健福祉部子ども課（元気館子育て支援センター） 砂塚一美

p46 **阪神・淡路大震災の経験から**
神戸市保健福祉局健康部地域保健課 野々村久実枝

p52 **新潟県中越地震の経験から**
新潟県村上地域振興局健康福祉部地域保健課 宇田優子

p63 **刈谷村の対応**
～小規模市町村の対応をみる～
新潟県刈羽郡刈羽村住民福祉課 内藤康子

ひよこ保健師 season 2

「保健師」の仕事にかける それぞれの思い、それぞれの夢

熊本県荒尾市に同時採用の国立大卒3人組

熊本県荒尾市 市民福祉部
西林美沙代さん 健康生活課（国保年金係）
荒木みどりさん 健康生活課（保健センター）
河村美穂さん 健康生活課（地域包括支援センター）
文・写真 西内義雄（フリーライター）

万田坑跡をバックに

熊本県の北西側に位置し、福岡県大牟田市と接する荒尾市は、かつて国内最大級の炭鉱（三井三池）があったことで知られている。市内には万田坑跡が遺跡として残され、明治時代のレンガ造りの建物が当時の様子を伝えている。

人口は長い間変動がなく、現在の約5万6000人は35年前とほぼ同じだ。人口的には小さな市であるが、実は2007年度に新人保健師を一挙に3人も採用している。特定健診・保健指導をにらんでの採用だと予測したものの、一挙に3人というところに興味を持って訪ねてみた。

干潟を自転車で移動する人々（有明海）

まずは市役所へ。地方の小さな自治体らしく古びた感のある建物だ。人の出入りはそれなりに多くお年寄りが目に付く。とくに年金の窓口にはいつも相談者が居るようで、職員たちは忙しく対応に追われていた。後期高齢者や年金問題のことがあるからなおさらだろう。一人目の新人保健師はここ、健康福祉部健康生活課国保年金係に在籍する西林美沙代さんだ。

国保・年金の窓口業務と特定健診

西林さんは荒尾市の隣町、長洲町の出身で23歳。文字通りの新人ひよこさんだ。高校まで普通科に通い大学で看護師と保健師の免許を取得している。その進路を選んだ理由は

「高校生のとき、祖母がガンで入院しまして、学校の隣が病院で毎日通っていました。そのあたりから看護師になりたいと思うようになり進路を決めました」

最初は看護師を想定しての進学だったようだ。ただ、看護師を目指すだけなら大学に行く以外に専門学校に行く手段もある。

「高校の先生から、『看護師を目指すなら3年より4年のほうが、将来役に立つよ』とアドバイスされていました。私も3年では余裕のある学生生活が送ることができないと考えてのことです」

結果、西林さんが進学先に選んだのは佐賀医科大学（現在の佐賀大学医学部）看護学科だった。進学にあたっては、初めてひとり暮らしができるワクワク感もかなりあり、新たな生活への期待でいっぱい。当初は看護師免許取得を第一に考え、保健師免許はあれば